参考資料：岡山県縣上道郡古都村史、現代古都の郷、ふるさと古都
岡山史蹟めぐり（岡山市立西大寺公民館古都分館）、岡山市の地名

古都村内には**南方の内山城**、宍甘の宍甘城、藤井の藤井城の３つがある。何れも室町時代に作られた山城である。

内山城　（南方字宮脇）

南方の内山城は古都の村々をはじめ岡山平野を見渡せる山上に築かれている。恐らくこの城は沼城の出城として築かれ平生は少数の武士が在城下にすぎなかったと考えられる。

吉備温故域は備陽国史等によれば城主は中山備中守と伝われている。永禄年間に中山備中守が宇喜多直家によって殺されると共にこの城も直家の手に移ったと考えられる。今日城壁等の址は残っていない。

【参考資料：『西大寺の城跡』　西大寺愛郷会　昭和４９年刊行】

太平山の頂上(93m)にある。山頂に立つと旧上道部の北部が見渡せた。したがってこの城は、沼城の出城として築かれ平常は少数の武士が居住したものだと分かる。
頂上には面積は下から想像するよりやや広く平らで、城跡は現在中国電力会社の鉄塔が立っている所より北部に寄っていた。
谷間で刀剣の小柄その他を拾った人もおり、山の北麓に井戸があったらしい。

城主については二説あり。室町時代の永禄元年（1558）より前に、既に中山備中守頼政の居城で、この人は沼城主備中守信正（政）の子ではなかろうかという説と、中山加賀守の居城でその子が中山備中守頼政だという説がある。

「備陽国誌」には「城主中山備中守。永禄年間、直家の為めに落城のよし。中山八幡宮の社記に見えたり。」とあり。
同宮が内山城の守護神であったか、或いは少なくとも備中守と何かの特別の関係にあったことを示している。けれども今の同宮にはこの社記には残っていない。
「東備郡村誌」にも、同様の説明があるが、その付記に「又慈眼院の過去帳には中山加賀守の居城と伝ふ」と書いてある。